

わがまち自慢

～村長室から～

とうかいむら
茨城県東海村
やま だ おさむ
山田 修 村長



私ども東海村は、「J-PARC」など世界の最先端科学技術の研究施設が集積するまちとしてよく知られていますが、実は古くからの貴重な文化遺産を持つまちでもあります。

村内には多くの神社仏閣があり、それぞれ古い歴史を持っています。中でも、村松^{だいにんぐう}という地域にある「茨城一の宮・大神宮」は、和銅元年（708）の創建と伝えられ、江戸時代（元禄年間）に水戸光圀公が神殿を造営、伊勢神宮より分霊を奉還して大神宮と称しました伊勢神宮の内宮にあたり、「茨城のお伊勢さん」と親しまれています。裏手の高台からは白砂の浜に緑の松が映える海岸を一望することができます。

また、その隣の「村松山虚空蔵堂」^{むらまつさんごくぞうどう}は大同二年（807）に弘法大師によって創建されたと伝えられています。本尊の虚空蔵菩薩は日本三体のひとつとして、県内外から厄払いや出世開運を祈願する多くの参拝者が訪れています。正月は初詣客で大変な混雑を見せるところです。

海側の、黒松の生い茂る林の中に「^{むら}邨（村）松晴嵐」という碑がありますが、これは幕末の藩主水戸^{なりあき}齊昭公の書で、藩政時代からこの地が、心やすらぐ風光明媚なところだったようです。齊昭公は子弟に自然鑑賞と健脚鍛錬を図るために、藩内に8つの景勝地を定めましたが、この

地もそのひとつに数えられています。

昨年の10月、この村松エリアで「大空マルシェ」が開催されました。東海村の文化と歴史を次世代に伝えようと観光協会が主体となって開かれ、村内外から多くのお客さんに来ていただきました。工芸品の展示販売やミュージシャンのライブなどで盛り上がったわけですが、このときに観光ボランティアによる「エリアツアー」も行いました。

観光ボランティアは、地域のみな達自らが動いてできたもので、その養成を行って、登録者は30名ほどになっています。地域自らが考えて行動する、というかたちで、行政はそれを支えるということになっています。

このように、地域住民はとて高い意識を持っています。東海村の村民の意識の高いこと、これが私どもの自慢のひとつです。

自らの課題に対して何をすべきか、と考える行動する村民が多く、「行政はうかうかできないぞ」と、いつも職員に言っています。

一昨年6月に「東海村自治基本条例」を制定しましたが、その中で「誰もが協働し、参画できる、住民による自治の実現」を掲げています。高い意識を持つ村民の皆さんの様々な意見を組み合わせれば、新しいものができる、と期待しています。

皆さんご存知のように、東海村の特産品は「干しイモ」です。茨城県はサツマイモ栽培の北限になっていますが、その生産量は全国一で、その主な生産地が東海村と、お隣の、ひたちなか市です。このサツマイモによるスイーツづくりをテーマに「地域のじまんづくりプロジェクト」（平成25年度 経済産業省 資源エネルギー庁事業）にも参加しています。

村内でJAが経営する「ファーマーズマーケット」には土・日になると、村外から多数のお客さんが、干しイモを求めに来られているようです。

栽培農家数は少ないのですが、ブドウと梨も東海村の特産品です。

最後に、私どもの村には、古いものから最先端のものまで、様々な地域資源が存在しています。そして、村民の村に対する思いも大きな力になると確信しています。

こうした村民の皆様とともに、東海村のポテンシャルを活かした持続可能なまちづくりを進めていきたいと思っています。（談）

自慢の干しイモ



「茨城一の宮・大神宮」



「村松山虚空蔵堂」



ファーマーズマーケット



水戸齊昭公の書「邨松晴嵐」という碑

